

ひとびとの精神史の水系から —どこへ行く「埼玉流」(自立生活と共生) お話:栗原彬さん(立教大学名誉教授・政治社会学)



身体障害・権力を編みなおす

「郊外の分解者たち—わらじの会と埼玉障害者市民ネットワーク」という文章(著者・猪瀬浩平さん)がおさめられた「ひとびとの精神史 第9巻—震災前後 2000年以降」(岩波書店、2016年)の編者が栗原彬さん。この本には、ほかに原発被災者、反貧困、沖縄・反戦、若者たちの民主主義、農ある街づくりなど、時代を拓く多くの試みが横並びに語られています。冒頭の文章は、性的マイノリティ、水俣、日常編集と束に。栗原さんは「プロローグ」として、これらの「細流」が伏流水となり、連携し合う瀬をつくって、やがて人類史の海に流れ入るイメージを描いています。

私たちの運動は、「遅れた埼玉」を逆手に取り、「自立生活」、「分けない(共生)」、「反差別」の諸活動が同じ土俵でせめぎあいつつ、自治体をよきケンカ友達としてやってきました。しかし、近年の市場化の大波により、土俵が拡散し、自治体の独自性もゆらぐ中、あらためて私たちの現在地点を計測し、進路を見定めることが問われています。

ここ数年、総合県交渉の前のちんどんパレードに参加していただいている栗原さんをガイドに、ひとびとの水系を共にたどり、共に考えましょう。

日時: 2月4日(土) 13:30~

会場: 岩槻駅東口コミュニティセンター

多目的ルームC(5階)

さいたま市岩槻区本町3-1-1

参加費: 500円(資料代)

主催: 埼玉障害者市民ネットワーク

(代表・野島久美子)

共催: (一社) 埼玉障害者自立生活協会

(理事長・坂本僚)

問合せ: 大坂 090-4938-8689



震災前後

栗原彬 編 2000 年以降

上原謙 中村一徳
山本和雄 杉本敦
多田孝一 高田孝一
石原英 坂本僚
先田武志 伊藤賢一
寺野隆雄 宮本浩
山崎伸一 猪瀬浩平
奥上田 聡 坂本僚
高田孝一 坂本僚
立教大学 岩槻区民会
社会司馬

岩波書店

ひとびとの精神史